

倫理 第8回「イエスの思想とキリスト教の世界宗教化」

○キリスト教を学んで一体人生の何の役にたつの？

倫理とは人間とは何か、人間はなぜ生きるのかを学ぶ科目です。人間は個人の努力ではどうすることもできない事態に直面することが多々あります。そんな時に、絶対的なものにすがりたくなりますが、それが宗教なわけです。**キリスト教は、アガペーによる人間の救いを説いています。**人間がなぜ生きるのかをキリスト教から考えてみましょう。

○今回のポイント

1. イエスの思想

1-1. イエスの教え

イエス「**【①】**は近づいた！」

(※イエスの言動は『新約聖書』のなかの「福音書」に掲載されています。『新約』には「福音書」の他、「手紙集」、「使徒行伝」、「黙示録」などがあります。)

↓

イエスが唱える**【①】**とは？

「**【②】**」：律法を形式的に守るのではなく、内面の心が問題。



「姦淫するな」という律法をただ形式的に守るだけではダメで、イエスは「みだらな思いで他人の妻を見る者は誰でも。既に心の中でその女を犯したのである」と述べる。(資料集 p.46 より)

↓

イエスが唱える律法 「二つの戒め」

(1)**【③】** 「心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ」

(2)**【④】** 「何ごとでも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ」
隣人愛の教え = 最高の道徳 ⇒ **【⑤】**

1-2. 神の愛

イエスによる弱者救済の教え

【⑥】 = 我欲を離れた絶対愛

価値や報いがあるからそのものを愛するというのではなく、無価値と思われるものをこそ愛し、励まし、勇気づけてくれる無差別・無償の愛。

[図解]

1-3.キリスト教の誕生

1-3-1.イエスの復活

- (1) 平等主義・弱者救済の人類愛精神 → 律法主義者の権威を脅かす → イエス処刑
↓
(2) イエスが刑死後、【⑦】して昇天 → イエス=神の子キリスト
↓
(3) 【⑧】を中心にイエスの教えを広める → キリスト教の誕生

1-3-2.【⑨】 信仰義認説を説く！！

- 【⑩】
- ・イエスはキリスト(救世主)である → イエス=キリスト
 - ・人類は生まれながらにして罪を背負っている(原罪)
 - ・イエスの死とは、原罪を代わりにつぐなうもの。
- 【⑨】は使徒として伝道に従事し、世界宗教化させる。

2. 世界宗教への展開

2-1.キリスト教の発展

2-1-1.【⑪】

○教父哲学って何？

キリスト教の公認化
↓
異教徒たちに教えを論証する必要性
↓
教父(教会の指導者)たちがカトリック教義の確立を目指す。

○【⑫】 『告白』、『神の国』

(1)キリスト教三元徳

信仰・希望・愛 > ギリシャ四元徳(知恵・勇気・節制・正義)

2)教会制度の意義の確立

<人類の歴史>

【⑬】 VS 【⑭】
神への愛の世界 自己愛と欲望の世界

地上における神の国=「教会」

2-1-2.【⑮】

…修道院付属学校(スコラ)で行われた、理性と信仰がどちらが大事かを考える哲学。

○【⑯】 『神学大全』

- ・信仰と理性を調和させたことに意義がある。
 - ・理性の働きは信仰にもとづく
- 【⑰】 → 信仰優位のもとでの信仰と理性の調和